

住吉大社社殿の沿革 ～本殿及び拝殿を中心として～

メモ)鉄本 (2023.12.05)

1. 沿革と絵図に描写された社殿

765年(天平神護元年) **住吉大社の創立** (『伊呂波字類抄』の記述による)

成立時期については、749年(天平勝宝元年)、757年(天平宝字元年)の両説がある。

前者は「興福寺略年代記」、「佐竹本三十六歌仙絵」に記述。

冷泉家所蔵「住吉大明神図」には、767年(神護景雲元年)の創立として住吉宮造とある。

(「住吉大明神図」の制作は鎌倉時代(13世紀)である。)

1493年(明応2年) **戦火により、本殿、末社、神宮寺を焼失** ☞ 『住吉松葉大記』(白洲弥次郎の放火)

1517年(永正14年) 穀屋上人(高野山・天野屋衆の勘定聖)の勸進により**本殿を再建**

第36回遷宮 (津守則氏御殿修理日記)

1542年(天文11年) 第37回遷宮 (住吉神社旧記)

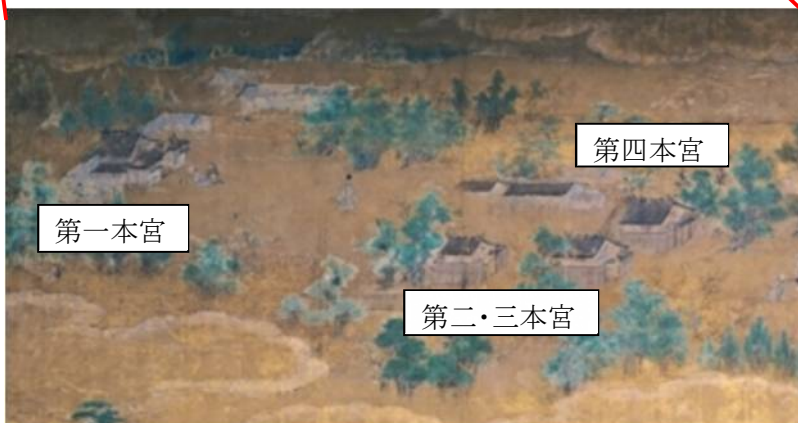
1576年(天正4年) **4つの神殿・幣殿(拝殿)、霊宝、客殿、4つの神輿など多数の施設が全焼**

(織田信長による石山本願寺攻めの際、本願寺側の一揆による放火)

1595年(文禄4年) **仮殿(本殿3棟)が再建される。**

(木食応其上人(真言宗の僧 1536～1608)による)

旧円満院宸殿障壁画「住吉社頭図 床間及違棚貼付6面」の一部 (狩野派)



国立文化財機構所蔵

①絵の景観は、仮殿状態にあった文禄期（1592～95）頃のものと考えられる。（絵の制作時期は17C）

②拝殿は第1本宮のみで、第2、3、4本宮には拝殿が描かれておらず再建されていないと推定される。

1606年（慶長11年） 第38回式年遷宮（豊臣秀頼の援助による造営）

①西大門、南神館殿、神殿高蔵、神輿舎、神馬屋、石舞台の完成

②神宮司護摩堂（現、招魂社）建設

1607年（慶長12年）

①第2、3、4本宮の幣殿（拝殿）を建立

②蓮池南楽屋、御旅所及び左右の御殿建立 西塔、東塔、三昧堂建立

北、南、東の大鳥居を建立 西塔は修理のみ 本社神域全体、神宮寺、海岸寺、諸堂塔を再建
反橋の記述はない。一方、社伝としてはこの時期に造られたとある。

☞【注記】『住吉松葉大記』に所収の「津守家盛記」の記録による。

【絵巻・工芸品に現れた太鼓橋】

①「酒伝童子絵巻」：狩野元信画 1522年（大永2年）制作 サントリー美術館

☞「太鼓橋」描写の初出

②「住吉法楽連歌 表紙」：1532（享禄5年）制作 宮内庁書陵部

③「住吉蒔絵硯箱 蓋裏」：京都国立博物館 15世紀制作

④襖絵「源氏物語 濡標」：俵屋宗達画 1631年（寛永8年頃）制作 静嘉堂文庫美術館



「酒伝童子絵巻」（酒伝童子を退治する物語）



「住吉蒔絵硯箱 蓋裏」



国宝 襖絵「源氏物語 ^{みおつし}濡標」（光源氏の住吉神社参詣場面）

1615年(元和元年) 「夏の陣」により**四本殿が損傷** (大坂方の放火 本殿の焼失は回避)

☞【注記】『駿府記』、『住吉松葉大記』の記録

1617年(元和3年) **第39回式年遷宮** *第35回までは遷宮は20年に一度

①住吉大社の造営遷宮、神宮寺、西大塔が再建 (本殿は焼失を免れており、修復を行った程度か)

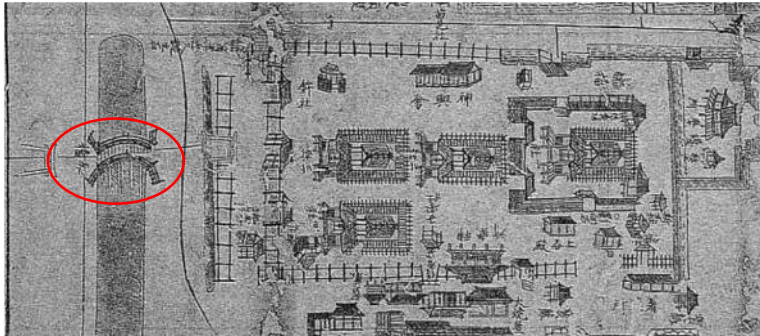
1655年(明暦元年) **第40回式年遷宮**

【大和川付替え(1704)以前の景観】

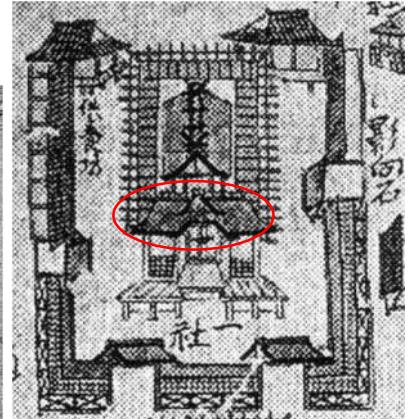
1704年(宝永元年)以前の景観 「住吉大社古図」(住吉大社蔵)

①拝殿: 入母屋造り、千鳥破風、軒唐破風

②反橋: 太鼓橋の形



反橋と第1・2・3・4本社の全体図



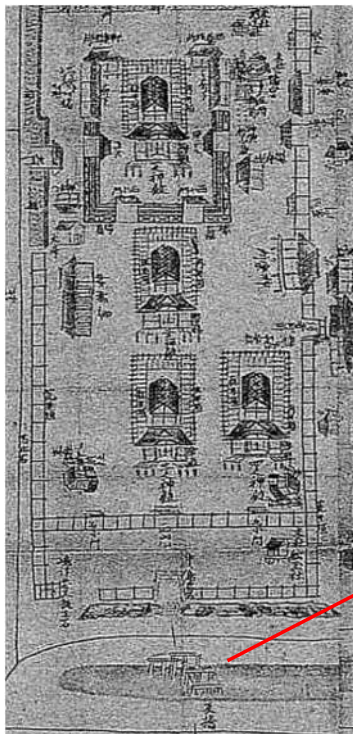
第1本社部分の拡大図

1709年(宝永6年) **第41回式年遷宮** 徳川綱吉の命により造営

①**4つの本社同時に遷宮**

②**大海神社**はじめ摂末社、堺宿院御旅所、方違社等まで 行われる規模の大きな造営、遷宮であった。

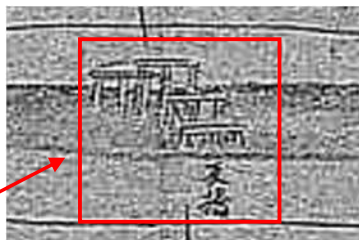
1723年(享保8年頃) 「住吉大神宮境内絵図」



①幣殿(拝殿)の形式が入母屋造り、千鳥破風と唐破風となっている。



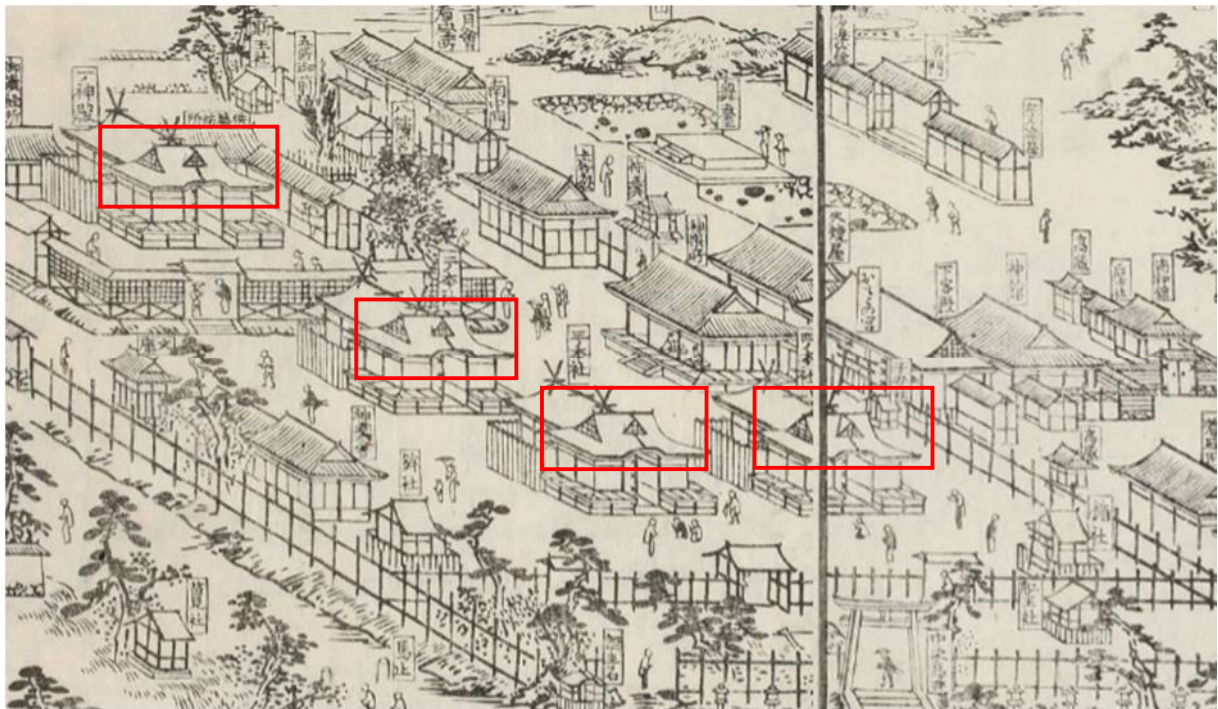
②反橋が橋桁のみとなっている。



③1723年(享保8年)建立の住吉大社御文庫が描かれており、これ以降の制作と考えられる。

1795年(寛政7年) 住吉名勝図会(寛政7年刊行)に見える社殿の様式

①幣殿(拝殿)の様式は、入母屋造り、中央に千鳥破風と軒唐破風



②摂津名所図会(寛政8年)に描写されている社殿も同様の様式である。



反橋 ⇒

1802年(享和2年) 大工小屋から出火、**本殿4棟を含む建物23ヶ所が焼失**

☞【注記】『摂陽奇観』(浜松歌国)の記録

1810年(文化7年) **本殿4棟及び拝殿の再建**

☞ 現在の建築様式と同じ

①本殿の様式: 妻入・切妻造り、周囲に門と瑞垣

②割拝殿の様式: 切妻造り、千鳥破風、軒唐破風

2. 史料による社殿の移り変わり(まとめ)

年代	第1本社・幣殿	第2本社・幣殿	第3本社・幣殿	第4本社・幣殿	反橋
1493年	戦火により焼失 (『住吉松葉大記』)				不明
1517年	本社再建	同左	同左	同左	
1522年					「酒伝童子絵巻」に初出
1542年	第37回遷宮 (『住吉神社旧記』)				
1576年	石山寺の合戦により焼失 (『御府文書』甲85)				
1595年 (文禄4)	本社・幣殿再建	本社のみ再建			旧円満院宸殿障壁画に描写
	『津守家盛記』 『住吉松葉大記』				

1606年	第38回遷宮 (『津守家盛記』)		
1607年 (慶長12)		幣殿(拝殿)のみ建立 ☞ 『住吉松葉大記』所収「津守家盛記」	
1615年	夏の陣」により損傷		
1617年	第39回遷宮		
1655年	第40回遷宮		
1700年頃	入母屋造り、千鳥破風、軒唐破風		「住吉大社古図」に描写
1709年	第41回遷宮		
1723年	様式は1700年頃と同様 ☞ 「住吉大神宮境内絵図」		橋桁だけになっている

3. 住吉祭礼図に描かれた社殿の建築様式 (主に拝殿に着目)

	屏風絵名称	所蔵場所	観察
①	住吉祭礼図	堺市博物館	第3・4本宮の拝殿だけが描かれており、拝殿は「入母屋造り」で、破風、向拝はない。
②	豊臣期大坂図屏風	エッゲンベルグ城 (オーストリア・グラーツ)	通常見られるL字形の配列になっていない。 第1本宮と見られる建物は「入母屋造り」で「千鳥破風」の拝殿が描かれている。第2・3・4本宮と思われる建物には拝殿が見られず、又、正面の方向が同一ではない。 景観は1595年(文禄4)の仮殿建築だった時期に近似。
③	住吉祭礼図	サンフランシスコ アジア美術館	4つの本宮全てに拝殿がある。拝殿には玉垣はない。 拝殿は丸みのある「切妻造り」に「軒唐破風」が付く。 向拝が「軒唐破風」部分から張出。
④	賀茂競馬・住吉祭礼図	個人	4つの本宮全てに拝殿の描写。拝殿は「入母屋造り」。 破風、向拝はない。①に近似。
⑤	大坂市街・淀川堤図	大阪城天守閣	鉾社、楯社のように見える建物が描かれているが、不明。
⑥	四天王寺・住吉祭礼図	サントリー美術館	4つの本宮すべてに拝殿の描写。形式は「入母屋造り」に、千鳥破風、軒唐破風が見られる。 現在の建築様式と同じ。
⑦	四天王寺・住吉祭礼図	四天王寺	第1本宮の拝殿は「切妻造り」に「軒唐破風」。 第2・3・4本宮は「切妻造り」で破風なし。

* 以下の画像の No は上記表の項番に対応。

【現在の住吉大社 拝殿部分】 写真は住吉大社 HP より



様式: 「切妻造り」、
「千鳥破風」と「軒唐破風」

②の社殿部分(グラーツ・エッゲンベルグ城)



①の拝殿部分(堺市博物館)



③の社殿部分(アジア美術館)



④の社殿部分(個人)



⑤の社殿部分(大阪城天守閣)



⑥の社殿部分(サントリー美術館)



⑦の社殿部分(四天王寺)



【参考文献】

- ・『日本の小社 住吉大社(大阪春秋 第25号)』「住吉大社の建築」 櫻井敏雄(近畿大学建築学科教授)
- ・特別展 図録『住吉さん』「描かれた住吉のイメージ 浜松・鷺から太鼓橋へ」 土井久美子 2010
- ・特別展 図録『都市の祈り 住吉祭と堺』
- ・『住吉松葉大記』、『住吉大社史』、『摂津名所図会』、『住吉名勝図会』